

# おひざのうえで 2023①

(副園長の子育て応援通信)

## 「シチズンシップ」 ～市民性の育ち～

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



給食も始まり、子どもたちの表情が柔らかくなってきました。新しい環境に、柔軟に適応していく姿や、安心したがゆえに自分を出して、嬉しさや悲しさを思いっきり表現している姿が見られます。

環境の変化は、大人も子どもも不安になるものです。「何をするのかわからない」「困ったら誰が助けてくれるかわからない」など思うかもしれません。人は、見通しができれば安心します。ですから、幼稚園では一日一日、小さな「大丈夫！」を重ね、安心を積み重ねていきます。そのために、先生たちは「魔法のような言葉」をかけていきます。子どもたちの不安げな姿も肯定的にとらえ、温かく見守っています。「ここは安心できる場所だよ」、「何でも言ってね」、「泣いてもいいよ」、「甘えてもいいよ」の気持ちを、様々な言葉にのせて届けています。豊かな感性や深い学びは、安心安定できる空間でなければ育ちませんから。



年長組では、早速「こども会議」のような話し合いが繰り広げられています。クラスのうさぎの名前を何にしようか、れんげタイムにどんな遊びをしようか、それぞれのマークはどれにしようか、などなど。自分の考えを伝えたり、友達の思いを受け止めたり、理由を話して説得したり迷っている友達に優しく聞いてあげたりする姿が見られます。納得のいかない友だちがいたら、多数決などで決めてしまわずに、その子が納得するまで気持ちを聞いたり、譲歩して折衷案を考え出したりと、実に民主的です。こうやって、みんなで生活の様々なことを決めます。このような話し合いによって、友達の思いを大切に、仲間意識が育っていきます。これは年長になっていきなりできることではなく、年少・中の時から小さな「こども会議」のようなものが生活の中であって、その経験が生かされています。



ふじ組 「ウサギの名前何にする？」

実は、せんりひじりの先生たちの語り合いも、非常に活発で楽しいものです。1年目からベテランまで、自分の思いや意見を語ります。それは、他の先生たちが肯定的に受け止めてくれるという信頼感と安心感があるからです。園の行事や保育内容も、園長副園長に言われてするのではなく、自分たちで話し合っ決めていきます。若手や1年目も楽しそうに語るの、せんりひじり幼稚園ならではだと思っています。先月はフレーベル社が先生たちの

「子ども理解の語り合い」取材にられました。私たちは、当たり前のように、保育者同士で語り合いを楽しみ、気が付けば誰でも意見が言える組織になりました。そして、保育の中でも、子どもたちが語り合って自分たちの遊びや生活を主体的に進めていくことができるように支えています。それが、私たちの目指すところでもあります。



フレール社の取材風景

先日委員希望調査のプリントも配付され、いよいよ保護者活動が始まります。保育者も子どもも、そして、保護者も民主的に、お互いの事情を受け止め思いやってそして助け合って進めていきたいですね。今朝、門のところに立っていると、お母さん同士の会話が聞こえてきました。「親睦委員がなくなったね。寂しいね〜。」「一緒にやりたかったね〜。」と聞こえてきました。親睦委員の負担を減らすために、PTA 役員さんが「お別れ会と色紙委員」に変更してくださいました。でも、そんな風に、保護者同士がつながって委員活動をするのを楽しみにしてくださっているつぎやきを聞いて嬉しくなりました。

子どもたちは、普段の遊びの中でも、自分の気持ちを言うだけでなく一生懸命友達の気持ちを考えてあげたり、推測したり、考慮してあげている姿を見せてくれます。子どもに仲間づくりのあり方を教えてもらっているような気になります。大人も子どもたちの見本となるような仲間づくりをしていかなきゃ、と思わせてくれますよね。



ばら組 「みんなの自己紹介で何が聞きたい？」



すみれ組 「すみれタイムは何をする？」



れんげ組 「どのマークがいい？」



ゆり組 「モルモットの名前何がいい？」

